

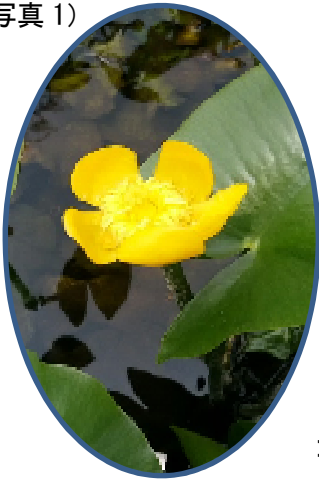
善福寺川周辺の樹木と野草

~~野草シリーズ~~

林 静 (S45 経)

第4回目、野草シリーズ第2回第2弾は、「和田堀池周辺に咲く花」をご紹介しますと思います。和田堀池は、大宮八幡宮の対岸、松の木遺跡のすぐ下にあります。昭和30年代に作られた人工池で、井戸水を使っているとのこと。池の中には島が二つあり、珍しい鳥も時々来るようで、大きなカメラを持った鳥好きたちが集まってシャッターチャンスを待っています。

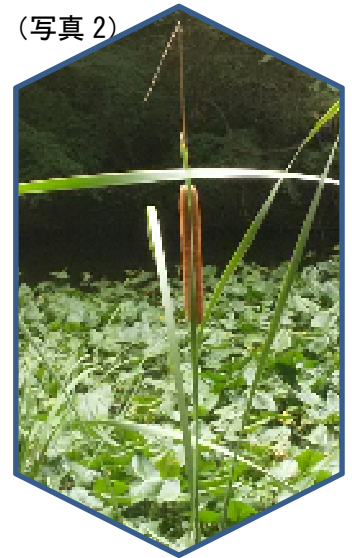
(写真1)



そんな和田堀池の水の中に咲くのは、「コウホネ (河骨)」(写真1)です。睡蓮の仲間のように、花の茎が水の上に、20~30cm伸びたその先に5cm程の黄色い鮮やかな花を咲かせます。花期は5~6月頃です。どこでも見られる花ではありませんので、是非見に行ってくださいと思います。

コウホネの隣に育っているのは、「ガマ (蒲)」(写真2)です。

(写真2)



水の中から細長い葉と穂がスーと伸びています。20cmほどの円柱状の茶褐色の蒲は、雌花の穂だそうです。ガマの穂先を「ガマホコ」といい、「蒲鉾 (カマボコ)」の語源だそうです。また、ウナギの「蒲焼き」の語源でもあるそうです。昔の蒲鉾は棒のまわりに作られたことから想像ができ、ウナギは、昔、輪切りにして食べたと思えば、なるほどな〜とガッテンがいきますね。また、神話で、赤裸にされた因幡の白兔がくるまったのはこのガマの穂綿だそうです。止血の作用があるそうです。

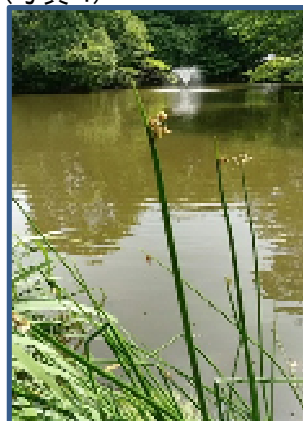
(写真3)



水辺に咲くのは「キシウブ (黄菖蒲)」(写真3)です。5月の端午の節句に使う菖蒲湯は菖蒲の葉を用いるので、なんとなく日本古来のものと思いがちですが、明治時代に観賞用として輸入され栽培されたものが逃げ出し野生化した外来種だそうです。驚きです。

水辺に咲く地味な花は、「イグサ(藺草)」(写真4)です。茎がまっすぐ50 cm余り伸び、7~8月頃、その先に小さな多くの花が固まって付いています。イグサといえば、畳が連想されますが、畳用には栽培品種が使われているそうです。

(写真4)



イグサの近くの池のほとりには、最近都会では見る機会が少なくなったジュズダマ(数珠玉)が見られます。その近くには、サワクルミの大木が、島の中には、秋には赤い実をつけたイイギリが、そして、ハゼノキの真っ赤な紅葉も見られます。とても魅力的なところです。池の前のベンチに座っている時が、私にはとても落ち着く幸せな時です。



追記：

和田堀池は、ちょうど今(2017年11月)、水質浄化のため汚泥除去を行うため、“かいほり”の最中です。来年の2月末まで、水が抜かれた珍しい和田堀池を見ることができます。

(つづく)